

革命とレアアースとオレンジと

～江西省贛州市～

2012.07.13

香港 花木

中国共産党は1949年に現在の「中華人民共和国」を設立するより以前、1931年に毛沢東を主席とする政権「中華ソビエト共和国」を設立したことがある。この政権は江西省南部の瑞金（現：江西省贛州（がんしゅう）市傘下）に位置し、蒋介石率いる国民党からの度重なる攻撃を受けて1934年にはあてのない敗走を迫られ、事実上崩壊した。ちなみに、この敗走が後にいう「長征」の始まりであった。

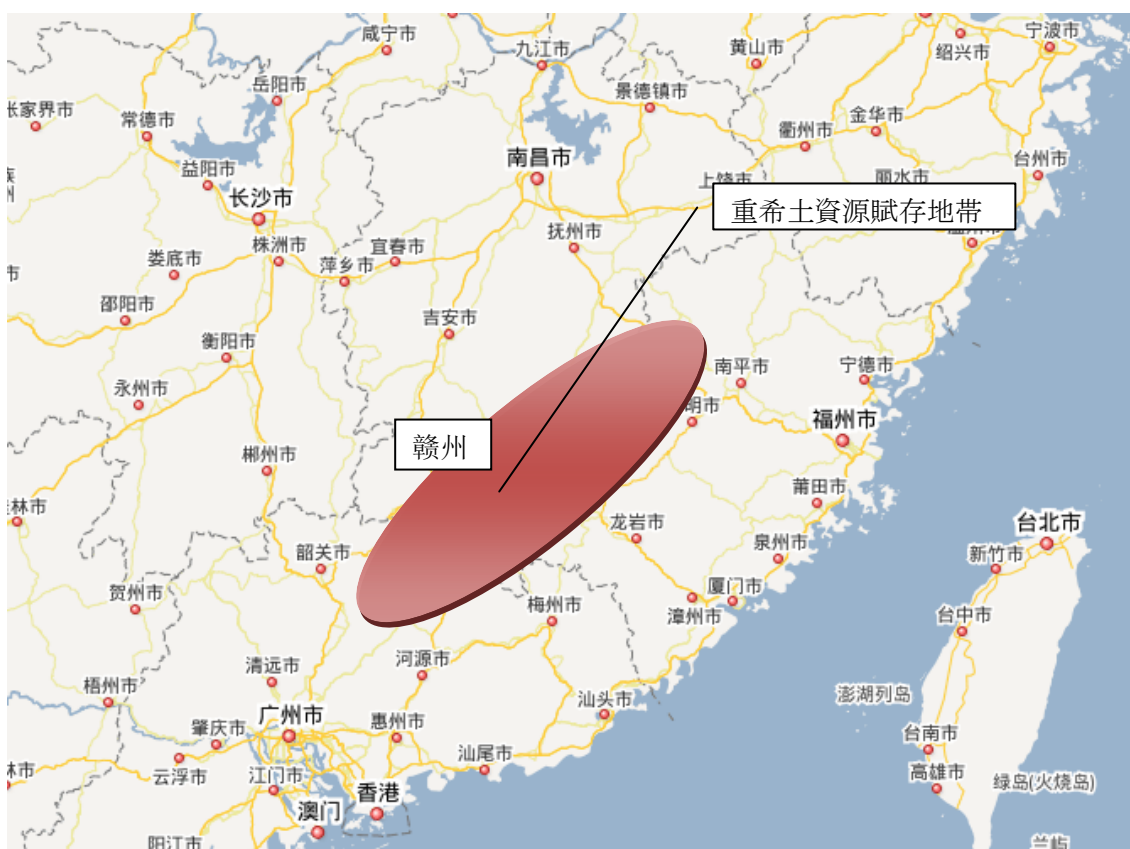
（1）レアアース長者が続出

贛州市は江西省の省都南昌市に次ぐ同省第二の都市とされるが、人口は900万人と南昌市（500万人）を上回っている。一人当たりGDPはわずか2500ドル（2011年）と中国平均の半分にも満たないが、これは市の面積が4万km²と九州に準じるほど広いため、市域だけに限れば約4000ドルの水準である。市内は緑あふれる大通りと比較的低層な商業施設が立ち並んでおり、道路上は比較的バイクが目につく。



↑ 贛州市の目抜き通り「文清路」

しかし、この町は中国南部でのみ採掘されるジスプロシウム等の重希土の集散地として有名で、市南部の信豊県、龍南県、全南県、定南県、安遠県及び尋烏県といった広大な地域には重希土類を多く含む「イオン吸着鉱」と呼ばれるレアアース鉱山が分布している。また、レアアースは中国政府が毎年生産量を割当てしているにもかかわらず、実際には割当生産量の数倍にのぼるレアアースが流通していた（いる？）とされるように、無許可で採掘する者も後をたたず、特に価格が高騰した 2011 年は合法・非合法を含めて贛州市内に多数のレアアース長者が生まれ、上半期だけで 1 億元（13 億円）以上の所得を得た者が 100 名以上にのぼったとも伝えられている。「贛州半年涌现百名亿万富豪（第一経済日報）」ほかの報道によれば、1 トンの採掘で約 40 万元（520 万円）の儲け、10 トントラック 1 台分を出荷すれば一度に 400 万元（5200 万円）が儲かるといった状態で、2010 年の月収がわずか 2000 元（3 万円）にすぎなかった農民が 2011 年は一気に数百万元（数千万円）も稼ぐ例もあったほか、一部には村ぐるみ・公安関係者ぐるみで非合法開発にいそしむ村もあったほどだという。また、こうした非合法的な採掘においては、切り崩した山土を人工池に浸し、そこに薬液を注入するため、周辺の山の荒廃や水質汚染、水源枯渇を招いたとも指摘されている。



2012 年に入ってから、政府の監督の強化と、そして何よりもレアアース相場の急落によって盗掘はかなり影をひそめているということだ。今回、贛州の町中を歩いたが、噂で聞いたような高級車はあまり見かけず、国産車や韓国車、また電動バイクが目についた。

商店もそれほど高級なブランド品を置いているわけではなく、香港や台湾、日本等の名前を模したレストランや喫茶店が多い印象で、消費意欲は旺盛だがまだ本物を消費できるだけの消費力がついていない印象を受けた。

中国ではインフレが年率3%以下に収まりつつある一方、政府の方針によって年間10数パーセントの割合で賃金が上昇している。江西省の最低賃金（月額）は今年20%引き上げられて870元（約1万円）となったが、商店等の求人募集は最低でも1200元、平均して1500元程度（更に各種保険は別途）というのが標準のようである。江西省の中小都市、まさにこの赣州市あたりこそがちょうど消費の拡大の最前線に位置するのだと、行き交う人々の旺盛な消費意欲を見て痛感した。



↑ 「渋谷109」という名のショッピングセンター（左）とアメリカのコーヒーチェーンから発想したような名前のコーヒーショップ（右）。（赣州市内で）



↑ 電動自転車やバイクが目立つ市内の光景。

（2）「元中華ソビエト地域発展計画」とオレンジ栽培

2012年7月、国務院はやや奇妙な名前の地域発展計画を批准、ホームページに掲載した。その名前は「贛州南部地域をはじめとする元中華ソビエト地域の発展に関する若干の意見（国务院关于支持赣南等原中央苏区振兴发展的若干意见）」というものである。国務院は各地の地域発展計画を批准しそれに対する政策支持を行っているが、「元中華ソビエト地域」

としてこの贛州市を中心とする江西省南部地域の発展計画を特に定め批准したのだ。それはこの地域が冒頭に述べたように共産党の歴史上いわば聖地に当たる地域であるにもかかわらず、その後長い間発展から取り残されている現状を踏まえたものであるとともに、今秋開催される政権交代のための党大会を前に、中国共産党がこうした「革命聖地」を特別視し、また革命聖地に共感と追憶を持つ老幹部に気をつけているようにも感じられる。

http://www.gov.cn/zwgg/2012-07/02/content_2174947.htm



←市内のあちこちに掲げられた本「意見」を歓迎する垂れ幕

この発展計画には農村の生活水準向上から交通インフラ整備まで様々な内容がてんこ盛りになっているが、地域の特色を反映したレアアース産業振興策（関連技術開発や戦略備蓄、交易センターの設立等）と、もう一つこの地域の特色ある作物であるオレンジ産業の振興が盛り込まれている点に特色がある。食生活の変化に伴って中国でもオレンジ（ネーブルオレンジ）の消費が急増しており、その供給拠点として贛州でのオレンジ栽培も急拡大しており、はっきりした統計は確認できなかったが地元では「カリフォルニア州よりオレンジ栽培量が多い」と言われるほどになっている。この地域でのオレンジ栽培は特色ある農産物栽培により農民の所得水準を引き上げる目的で、1980年代から胡耀邦総書記（当時）が音頭をとって進めたと言われている。また、土壌に微量のレアアースが含まれる土地ではオレンジの甘みが増すという説もあるようで、ここ贛州のオレンジは甘いとい



あるようで、ここ贛州のオレンジは甘いといふことで中国中に名前が通っているようだ。オレンジの収穫は毎年10～11月で、その時期にあわせて大規模なオレンジ祭りが開催され、多くの観光客を集めている。

←「中国におけるネーブルオレンジの里」と書かれた看板。（贛州市信豊県）



↑ 山いっぱいにはろがるオレンジ畑（贛州市信豊
県安西村）



↑ 安西村のメインストリート。こんな山奥の村でも自動車
が普及してきている。

(以上)